



## 柏市における消費者教育の取組について

柏市教育委員会 柏市立教育研究所 指導主事 美留町 紀子 氏



### 千葉県および柏市について

はじめに千葉県柏市について御紹介させていただきます。右のイラストは千葉県のマスコットキャラクター「チーバくん」です。チーバくんは、好奇心旺盛でいろいろなことに挑戦するのが大好き。横から見ると千葉県の形をしています。チーバくんは今年1月に誕生10周年を迎えました。これからも千葉県を盛り上げるためにさまざまな場所でお目にかかるかと思えます。

柏市は千葉県北西部に位置しています。チーバくんの体でいうと、目と鼻のほぼ間の位置になります。平成29年9月1日現在の人口は42万636人。平成20年に中核都市となり、今年で市政63年目を迎えました。市内には小学校が42校、中学校が20校、高等学校が1校あります。平成30年に新しく中学校を開設する予定です。

### 柏市における消費者教育推進のあゆみ

#### (1) 柏市消費者教育推進連絡会の発足

柏市では、平成3年度より柏市消費生活センターと柏市教育委員会学校、柏市の小・中・高等学校が連携し、「柏市消費者教育推進連絡会」（以下、連絡会）を発足して消費者教育の取組が始まりました。

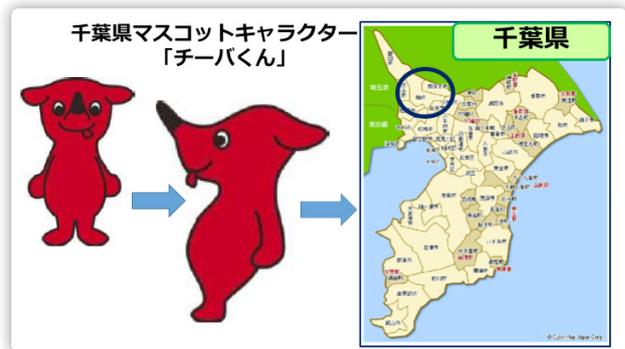
柏市消費生活センターの啓発事業の中に、学校における消費者教育の推進をねらいとした連絡会の取組が位置づけられています。その中では連絡会発足の背景として平成4年の学習指導要領の見直しがあり、それを見据えて消費生活センターと教育委員会、小・中・高等学校の教員で研修や意見交換などを行い、学校における消費者教育を推進するというねらいがありました。

#### (2) 発足後の取組

発足後の取組としては、一つに教職員対象の研修会や情報交換の場の設定、もう一つに消費者教育相談員による出前事業の実施があります。出前授業では契約・取引、環境、安全、情報などさまざまなテーマが設定され、幼児から小学生、中学生向けに授業が行われました。

この出前授業は、平成18年度からは連絡会の委員が中心となって授業を立案、展開しました。ポイントは、さまざま

「チーバくん」と柏市の位置



授業実践事例集



な教科・領域の中で消費者教育の視点を持った授業が行われることです。

普段の授業に消費者教育の視点を取り入れ、いつでも、どこでも、誰にでも実践できるように授業実践事例集も作成しました。事例集はホームページで紹介し、この取組を柏市全体に広げていくことにも努めています。

#### (3) 授業実践例

昨年度の授業実践を二つ御紹介します。

小学校第6学年社会科「私たちの暮らしと日本国憲法」では、消費者教育の視点として「消費者市民社会の構築」を取り入れました。憲法のアイコンを作って発表したり、ユニバーサルデザインのものを見たりしながら、憲法は誰の

## 実践事例報告 一柏市における消費者教育の取組について

ために・何のためにあるのかを考えました。授業後、子供たちからは「日本国憲法があるからこのような暮らしができていくということがわかり、憲法が重要だということがわかった」「日本人は憲法があるから平和に暮らせるといった」などの感想が出されました。この授業を通して子供たちは、憲法が平和な社会の形成や自分たちの生活や権利を保障していることについて考えることができました。

中学校第1学年家庭科「地域の食材と家庭料理」では、消費者市民社会の構築と商品安全の視点を取り入れ、地域の食材を利用した「オリジナルいもけんちん」の調理実習の計画立案を行いました。授業後、子供たちから、「これからは地産地消を意識して食材選びをしたい」「旬の食材や地域の食材を積極的に取り入れたい」などの意見が出されました。この授業を通して子供たちは、地産地消を実践することで食の安全を保ち、輸送にかかるコストを減らすことができること、それが環境にやさしい取組にもなること、さらに積極的に地域の食材を取り入れることで地域の活性化につなげることができることについて考えることができました。

下表は平成18年度から28年度までに実施された消費者教育の視点を持った授業の実践事例一覧です。小学校では社会科や家庭科、道徳、中学校では数学や家庭科、高校では化学というように、これまでさまざまな教科において実践されてきました。

## 小学校での授業実践



## 中学校での授業実践



## 消費者教育の視点を持った授業の実践事例（H18年度～H28年度）

No.	教科	内容	事例集	No.	教科	内容	事例集
1	家庭科	ゴミを減らす工夫を考える中で、4Rについて知る	I P36	27	総合	スイカと切符の特徴を理解し、それぞれの良さと注意点に気付く	IV P48
2	家庭科	エネルギーの無駄を省いた明るさ、暖かさの実現を工夫する	II P14	28	進路	多様な職業と就業形態に気付く、将来設計に生かす	III P45
3	家庭科	様々な発電方法の特徴と課題を調べて発表しあい、生活と環境との関わりについて考える	IV P20	29	家庭科	現金とカードの違いと、多重債務に陥らない家計管理を学ぶ	I P62
4	道徳	副読本「ふるしき」を読み、実際に色々な物を包む体験をする	II P3	30	家庭科	家計管理を理解し、自分の将来への見直しにつなげる	II P61
5	社会科	政治参加の態度、投票率を上げる方策を考えて市に提案する	V P7	31	家庭科	免許習得と車の購入にかかる経費、ローンの仕組みを知る	IV P96
6	社会科	3人の武将の政治的根拠に基づいた経済政策について考える	II P23	32	国語	実際の広告やチラシを調べその目的や対象に気付く	III P11
7	家庭科	ガーナの 카카오農場での児童労働と、フェアトレード商品の存在を知ること、こづかひの使い道に対する視野を広げる	IV P14	33	算数	量と重さから、Lサイズ、徳用サイズが本当に買い得か計算する	V P14
8	総合・社会	消費税の「復興税」という増税について意見を交換する	III P37	34	家庭科	菓子袋を調べて商品選択に必要な情報に気付く。実際に菓子のパッケージを作成して発表しあう	III P31
9	総合	持続可能な消費を目指し、エコサミットを開催して自分達にできるエコ生活の提案を行う。家庭を巻き込んだ実践につなげる	IV P53	35	道徳	絵本を見て、自分と他人では見え方が異なることに気付く、身の回りの情報を批判的に判断しようという態度につなげる	V P18
10	総合	世界の水問題の姿と、それに挑む日本の技術力を実験で知る	V 39	36	特別活動	様々な商品のマークを集め、その情報に気付く	II P58
11	社(公民)	市場経済が自由競争により成り立っていることを理解する	IV P64	37	総合	スーパーの棚か空になるブーム、風評被害など、一方的に流され人を動かす様々な情報に気付く。批判的思考力を養う	IV P27
12	家庭科	地産地消の献立を作成し、調理実習を行う	II P33	38	数学	単利、複利の違いを実感し、安易な借金についての考えを持つ	III P53
13	家庭科	材料の廃棄量に焦点をあわせたエコッキングを実践する	IV P83	39	数学	携帯電話パンフレットの1次関数のグラフを読み取り、使用状況に応じた「有効な契約プラン」を選択するために話し合う	IV P74
14	家庭科	食器の洗い方による排水の汚れの違いを実験で確かめる	V P60	40	数学	宝くじの仕組みや当選確率の求め方を見つけ出し、普段の生活に役立つ数学への関心を高める	V P49
15	社(地理)	身近な商品が地球上の様々な地域から届いていることに気付く	V P43	41	家庭科	商品選択に役立つ表示やマークを学び、広告を作成してみる	I P44
16	社(現代社会)	庶民の味、サンマとタコに焦点をあて、グローバル経済の下で「持続可能な開発」を維持するために自分達に何ができるか考える	V P66	42	化学	酸化還元反応を利用して、清涼飲料水中の酸化防止剤の濃度を求める実験をおし、食品に含まれる添加物の役割に気付く	IV P102
17	保健	栄養素の働きに気付く、自分の食生活を振り返る	II P40	43	生物	遺伝子組み換え作物が商品化され流通される過程を理解し、その安全性について討論することで客観的に判断する態度を養う	V P73
18	総合	実際の身近な消費者トラブルの例を通して注意の必要性を知る	V 39	44	家庭科	賃貸住宅の広告を素材に、語句や間取り図の見方を学ぶ	III P59
19	社(公民)	ロールプレイを作り発表しあうことで、悪徳商法を理解する	I P51	45	社会科	風邪薬のテレビCMを見て、それが商品の情報の全てではないことに気付く。専門店で買う物の仕方を知る	IV P35
20	社(公民)	通信販売広告を元に、被害の実態や広告の正しい見方を知る	II P47	46	総合	見たくないウェブページを開いた時の対応の仕方を知る	I P25
21	道徳	お金に関するアニメを観て、物とお金の使い方を考える	I P2	47	総合	SNSに投稿する画像の影響や問題点を話し合い、情報の受け手、発信者としての情報モラルについて考える	IV P42
22	道徳	ほしい物と必要な物の違いに気付く、お金の活用法を考える	I P7	48	情報	電子商取引の特徴を知り、トラブルや注意点について考える	III P62
23	家庭科	筆箱の中身調べから身の回りの物の使い方や買い方を見直す	I P18				
24	家庭科	得る、使う、貯めるに気付く、お金の使い方に関心を持つ	III P3				
25	総合	お金の歴史を知り、暮らしとお金の関係を考える	III P16				
26	総合	買い物ごっこを通して、よく考えてから買う大切さに気付く	III P26				

## 実践事例報告 一柏市における消費者教育の取組について

## 消費者教育推進に向けて

## (1) 柏市消費者教育推進連絡会の取組

次に消費者教育推進に向けての柏市消費者教育推進連絡会の取組について御説明します。

今年6月、第1回連絡会において、柏市版「消費者教育の体系イメージマップ案」と、消費者教育の視点を持った授業について検討しました。

イメージマップ案では、①消費者市民社会の構築、②商品安全、③契約・金銭管理・生活設計、④情報社会対応の4つの領域それぞれにおいて「身につけたい力」が設定され、発達段階に応じた内容が示されています。

今回検討した内容は、イメージマップ案で身につけたい力の内容や時期についてと、学校でできる取組のアイデアについての2点でした。

検討した結果、次のような意見が出されました。「生活を設計し金銭を管理する力を身に付けるために、何か欲しい物があつたときなぜそれが欲しいのか欲しい理由を考えると、物や金銭の大切さに気づき使い方を考えて実践することが幼児期から必要になるのではないか」「情報モラルを理解し活用する力を身に付けるために、幼児期からの個人情報保護の視点が必要であるとされているが、幼児たちにどの程度の個人情報を守らせるべきなのか」また、消費者の影響を理解し行動する力を身に付けるためには、成人期で消費者問題や消費者被害を減らすための社会活動

に積極的に参加するという点について「社会活動とはどのような内容を指すのか」などです。それぞれの意見を受けて消費者教育の体系について改善していくとともに、その内容について明確にしていく必要があると考えています。

消費者教育の視点を持った授業についての検討では、委員による今年度の授業実践計画の発表と、昨年度の授業実践報告がありました。

## (2) 柏市立教育研究所の取組

柏市教育委員会 柏市立教育研究所では、「情報モラル育成プログラム」を実施しました。小・中学校9年間の目標を、「他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持つことができる。また危険回避など情報を正しく安全に利用でき、コンピュータなど情報機器の使用による健康との関わりを理解することができる」とし、小・中学校におけるさまざまなプログラムを設定しています。

例えば小学校1年では、「ルールやマナーを守る/コンピュータを使うときの約束を守ろう」、小学校2年では「安全と健康への配慮/ゲームに熱中すると」、5年生では「ネットいじめ/ネットいじめは絶対にやめよう」などがあります。

小学校6年と中学校2年においてはIT教育支援アドバイザーによる情報モラル教育も実施しています。本日の午前中に行われた中学校第2学年の公開授業「学級活動 情報モラル」がそれに当たります。

## 柏市版「消費者教育の体系イメージマップ(案)」

計画の目標(暫定)		・消費者被害をふせぐ。 ・自ら学び行動する消費者を増やし、消費生活の安定と向上を目指す。 ・自らの消費生活が社会や未来に影響を与えることを自覚し、消費生活を通してより良い社会づくりに関わる消費者を増やす。						
消費者教育の場		■領域						
		学校、園、社会教育施設				地域		
		家庭						
重点領域	各期の特徴 (指導の特性に 配慮する)	幼児期	小学生期	中学生期	高校生期	成人期		
		家庭などを中心に消費生活を送る時期 (思わぬ商品事故に周囲の人の注意が必要な時期)	家庭などを中心に消費生活を送る時期	家庭などを中心に消費生活を送る時期 主体的な行動を始める時期	消費者として自立を始める時期	特に若者 消費者として自立を進める時期 (成人すると、社会経験が少ないことを利用した悪質商法に狙われる時期)	成人一般 精神的、経済的に自立した消費生活を送る時期	特に高齢期 必要に応じて周囲の支援を活用する時期 (悪質商法に狙われる時期/思わぬ商品事故に周囲の人の注意が必要な時期)
消費者市民社会の構築	人、社会、環境、未来を考えた消費生活を送る力(持続可能な消費)	買い物に関心を持つ	消費をめぐる物と金銭の流れを知り、消費者の行動との関わりを考える	人、社会、環境、未来を考えた消費生活を送る。よりよい方法を伝え合う				
	消費者の影響を理解し、行動する力(消費者市民社会)	物を大切に使う	消費生活と環境、資源及びエネルギーとの関わりを知り、消費生活に生かす	消費者問題、消費者被害を減らすために積極的に行動する				
商品安全	商品に安全に使用する力	安全に関する注意を守る	商品を買うときや使うときに安全に配慮する/商品の危険危険情報に関心を持ち、伝え合う					
	安全な商品を選択する力	商品を使用したときや危険だと思ったことを、信頼できる大人に知らせる	商品による危険や危害に関する相談機関を知り、活用する					
契約・金銭管理・生活設計	契約の仕組みを理解する力	買い物のマナーや約束を守る	契約の決まりを知る、契約の内容を確認し、よく考えてから契約する					
	消費者トラブルに対応する力	困ったときは信頼できる大人に知らせる	販売方法の特徴、契約トラブル解決の法律や制度、相談機関を知り活用する/消費者被害の情報に関心を持つ、伝え合う					
情報社会対応	消費生活情報を評価し、活用する力	買ってもらいたい、買いたい物があるとき、欲しい理由を考える	物や金銭の大切さに気づき、使い方を考えて実践する	将来を見据えた生活設計を考える/計画的な暮らしをする	消費生活の変化に応じて生活管理の方法を考える			
	情報モラルを理解し、活用する力	自分の物に名前を書き大切に扱う 他の人の物を大切に扱う	個人情報、著作権、肖像権及び情報発信の責任を理解し、注意して行動する					

## 実践事例報告 一柏市における消費者教育の取組について

さらに、「柏市消費者教育ポータルサイト (<http://www.scenter.kashiwa.ed.jp>)」から情報提供も行っています。当サイトは、柏市立教育研究所ホームページおよび市内の小中学校教職員が利用する校務支援サイトからリンクされています。このポータルサイトでは消費者教育の出前講座や教材に関する情報、保護者・地域の方に向けた「柏市消費生活センターつうしん」が掲載されており、多くの方々に情報を提供しています。この情報は消費生活センターが作成しています。

### 消費者教育推進のアプローチ方法

最後に柏市における消費者教育推進のアプローチ方法についてまとめさせていただきます。

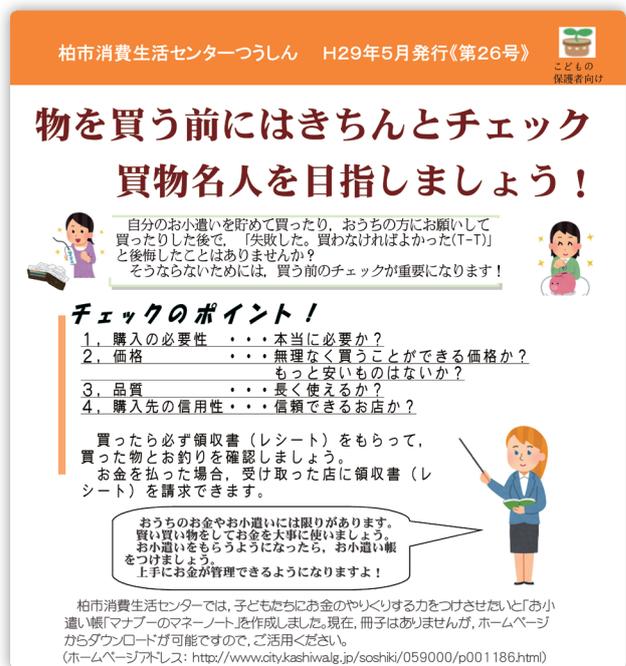
- ①日常生活を取り巻いている課題そのものに目を向け、教材づくりのヒントがあることを認識する。
- ②教科・領域を中心に、学校全体で体系的に実践する。
- ③出前講座を活用するなど、各関係機関との連携を図る。
- ④「柏市消費生活センターつうしん」などを活用するなど、保護者への啓発を行う。

これらについて今後も引き続き取り組み、消費者教育の推進を図っていききたいと思います。

### 柏市消費者教育ポータルサイト



### 柏市消費生活センターつうしん





# 総合的な学習の時間 学習指導案

柏市立柏第三小学校 4年2組

授業者：金野 千佳 氏

## 1. 単元名：「エコアップ大作戦」

## 2. 単元について

この単元は、「節水、節電、ごみの削減」に焦点をあて、児童が自ら進んでエコ活動を実践できるようになることを目標としている。そのために、第一段階として、今の日本や自分の身の周りの環境問題の現状を調査する。どれだけの水や電気が無駄になっているのか、どれだけのゴミが処理されているのか等、具体的な数値を知ることによってエコへの意識を高める。その上で自分にどんなことができるのかを考え、エコアップ宣言をする。さらに家族や友達、地域の方々へ、自分たちが調べたことをポスターを通して呼びかける。

## 3. 本時について

### (1) 目標

エコ活動を広めるために、呼びかける対象に合わせて適切な言葉を決めることができる。

自身のエコアップ宣言をもとに、そのエコ活動を地域の人へ積極的に広めようとするができる。

### (2) 消費者教育の視点

「持続可能な社会」をめざし、環境とのかかわりを考えて賢く消費する消費者の素地を育てる。

### (3) 展開

指導内容・学習活動	指導上の留意点（◎評価）	備考
1. 本時の学習課題を知る。		
<p><b>学</b> エコを呼びかけるポスターにはどのような絵や言葉を入れるとよいだろうか。</p>		
<p>2. ポスターに入れる適切な言葉を考える。</p> <p>①自分たちが集めてきたポスターを見て、どんなポスターが印象に残るか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに児童が集めたポスターを貼っている場所に集まる。</li> </ul> <p>②ポスターに入れる適切な言葉を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰に向けてのポスターにするのかを決める（小学生、幼稚園児、会社員、主婦など）。</li> <li>ふせんに思いっただけ書き、最終的に1つに絞る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象によってポスターに入れる言葉や絵が変わることを伝える。</li> <li>思いつかない児童には、これまで調べたことの中で一番伝えたいことは何かを考えさせたり、手本のポスターを参考にしよう伝えたりする。</li> <li>進みの早い児童にはポスターと同じ大きさのレイアウト用の白い紙を渡す。</li> </ul> <p>◎適切な言葉を決めることができたか。</p>	<p>ポスター</p> <p>ワークシート</p> <p>下書き用の白い紙</p>
3. 本時のまとめをする。		
<p><b>ま</b> エコを呼びかけるには、一番伝えたいことがわかるように、伝えたい相手に合った絵や言葉を入れよう。</p>	◎エコ活動を積極的に広めようとしているか。	



# 家庭科学習指導案

柏市立柏第三小学校 5年1組

授業者：小泉 沙紀子 氏

## 1. 題材名：じょうずに使おうお金と物「買い物の達人になろう」①

## 2. 題材について

現在、消費者を取り巻く環境は、高度情報化の進展により大きく変化している。それに伴って、小学生のインターネットを利用したオンラインゲーム等のデジタルコンテンツに関わる消費者相談や消費者トラブルが増えてきている。本題材の前半では家族の支出と収入のバランスを考えて、計画的にお金や物の使い方を学習する。後半では身近な文房具であるノートの購入とネットショッピングの仕組みの一つであり、子供たちが容易く利用できる「ガチャ」を素材として学習する。賢い消費者の育成を目指す4時間構成の題材である。

## 3. 本時について

### (1) 目標

ノートの使い方を見直し、賢い買い方がわかる。

### (2) 消費者教育の視点

よりよい意思決定能力を身につける。

身近な商品を賢く選択する力を身につける。

### (3) 展開

指導内容・学習活動	指導上の留意点（◎評価）	備考
1. 本時の学習問題を知る。	・数種類のノートを提示して、実際の場面を想起させる。	数種類のノート
<b>学</b>	<b>買い物の達人心得 三カ条をつくろう。</b>	
2. ノートの選び方について考える。	・数種類のノートの特徴（価格、環境基準、デザイン）をもとに選択の際の自分なりの優先順位（選択理由を）考えさせる。	ワークシート
3. ノートの選び方について話し合い、「買い物の達人心得三カ条」をつくる。	・ノートを選ぶ時の優先順位をカードで示させる。	カード
・自分の考えと他者の考えの相違点を比較しながらグループで話し合わせる。		
<b>ま</b>	<b>買い物の達人心得 三カ条</b> ・なるべく価格をおさえる ・環境に配慮したものを選ぶ	
	◎ノート選びを通して、身近な商品を賢く選択することを考えることができたか。（ワークシート、観察、発言）	
4. 「買い物の達人心得 三カ条」を紹介し合う。	・「買い物の達人心得」がノート以外にも活用できる視点を持たせる。	



# 家庭科学習指導案

柏市立柏第三小学校 5年2組

授業者：小川 裕也 氏

## 1. 題材名：じょうずに使おうお金と物「買い物の達人になろう」②

## 2. 題材について

現在、消費者を取り巻く環境は、高度情報化の進展により大きく変化している。それに伴い、小学生のインターネット等利用に関する、消費者トラブルが増えてきている。本題材の前半では、家族の支出と収入のバランスを考えて、計画的にお金や物の使い方を学習する。後半では、身近な文房具であるノートの購入のしかたとネットショッピングの仕組みの一つである「ガチャ」についても発展的に扱うことで、賢い消費者の育成を目指す4時間構成の題材である。

## 3. 本時について

### (1) 目標

ネットショッピング（ガチャ）のしくみを理解し、賢い選択や利用のしかたについて考えたり、工夫したりすることができる。

### (2) 消費者教育の視点

よりよい意思決定能力を身につける。／プログラミングされたネットショッピングがあることを知る。

ネットショッピング（ガチャ）を賢く選択・利用する力を身につける。

### (3) 展開

指導内容・学習活動	指導上の留意点（◎評価）	備考
1. 「ガチャガチャ」と「ガチャ」を体験し、前時までの買い物との違いを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらも、自由に欲しい物を選択することができない仕組みに気づかせる。</li> <li>・「ガチャ」は、いくらお金を使っても、「当たり」が出ないことに疑問を持たせる。</li> </ul> ◎プログラミングされたネットショッピングがあることに気づくことができたか。（ワークシート、発言、観察）	「ガチャガチャ」の実機 「ガチャ」のプログラム タブレット端末(1人1台) ワークシート
2. 本時の学習問題を知る。		
<div style="background-color: #f4a460; padding: 5px; border: 1px solid #f4a460;"> <span style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">学</span> <span style="margin-left: 10px;">買い物の達人心得 四力条目をつくろう。～ガチャのひみつ～</span> </div>		
3. 「ガチャ」のどこに問題があるか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「当たり」がでる確率が、すでにプログラミングされていることを確認する。</li> <li>・現金がなくても続けることができるため、お金を使い過ぎる傾向に気づかせる。</li> </ul>	
4. どのように修正したらよいか考え、プログラミングする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えをワークシートに記入し、プログラムの順序と条件を修正させる。</li> </ul>	ワークシート タブレット端末(1人1台)
4. 本時のまとめをする。		
<div style="background-color: #fff9c4; padding: 10px; border: 1px solid #f4a460;"> <span style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">ま</span> <span style="margin-left: 10px;">買い物の達人心得 四力条目</span>            ・ガチャのようなネットショッピングは、情報を集めたり、計画を立てたりすることで、賢く選択・利用する。         </div>		
	◎賢く選択・利用することを考えているか。（ワークシート、発言、観察）	

※この授業で使用するプログラムは、柏市教育委員会と放送大学と（株）Benesseの共同研究によるものである。

※「ガチャ」とは、オンラインゲームの中で、プレイヤー（消費者）に対してアイテム等が供給されるもの。

※「ガチャガチャ」は、硬貨を投入後にダイヤルを回転させるとカプセル入りの玩具等が提供されるもの。



# 生活単元学習授業実践報告

柏市立柏第六小学校 特別支援学級

授業者：竹内 祥子 氏

## 1. 単元名：「グッジョブ！」

## 2. 単元について

ほしいもの（校内の教職員から集めたもの）を考えて買い物計画を立て、それを買うために自分に合った仕事に挑戦し、作業の様子や出来高に応じて給料（仮想通貨「ひま」）を受け取る。そしてそのお金で買い物をする。物を買う時の基準は、チャートで示す。児童の実態に応じ、じっくりと意志を確認しながら取り組ませたい。

## 3. 本時について

### (1) 目標

進んで仕事をし、ほしいものを買うかどうかを考え、お金を正しく払って買い物をする。

### (2) 消費者教育の視点

仕事で大切な姿勢やマナーの確認・ヘルプスキルの支援・チャートでの購買判断基準の提示

### (3) 展開

指導内容・学習活動	指導上の留意点（◎評価）	備考
1. 本時の学習問題を知る。		
<p><b>学</b> 一生けんめいはたらこう！ 楽しくかいものをしよう！ グッジョブ！</p>		
2. 仕事をする。 ◎印刷作業 担当：事務補助 場所：印刷室 ◎校内美化 担当：用務員 場所：中庭・体育館わき ◎シール貼り 担当：教頭 場所：職員室	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつをきちんと行い、一生懸命、丁寧に、早く作業するよう声をかける。</li> <li>手順を示し、自主的に取り組めるようにする。</li> <li>困ったときには教師を呼んだり、ヘルプカードを出したりするようにする。</li> </ul> ◎進んで仕事をすることができたか。	手順書 ヘルプカード
3. 給料をもらおう。		
4. 買い物をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャートを見せ、買うか判断させる。</li> </ul> ◎買うかどうかを考えることができたか。 ◎お金を正しく払って買い物をすることができたか。	チャート 位置取りボード
5. 本時のまとめをする。		振り返りカード
<p><b>ま</b> しごとは しゅう中して やる。 かいものは よくかんがえて かう。</p>		



# 学級活動指導案

柏市立柏中学校 2年4組

授業者：大塚 遼太 氏 (T1)

IT教育支援アドバイザー：田中 香穂里 氏・小松 純子 氏

## 1. 題材名：情報モラル「SNS等のトラブルを解決しよう!」

## 2. 題材について

近年、スマートフォン等の普及により、誰でも手軽にインターネットやSNS等を利用することができる状況にある。しかしその一方で、トラブルに巻き込まれたり、引き起こしたりということが問題となっている。インターネットの利便性と危険性だけでなく、自他に与える影響の大きさについても認識させ実践できるようにしたい。

## 3. 本時について

### (1) 目標

インターネットへの投稿が自他に与える影響や不利益になることを知り、情報社会における責任や義務について理解するとともに自ら実践することができる。

### (2) 消費者教育の視点

個人情報、著作権、肖像権および情報発信の責任を理解し、注意して行動する。

### (3) 展開

指導内容・学習活動	指導上の留意点 (◎評価)	備考
1. 本時の学習課題を知る。	・本時の学習課題について、自分事として捉えられるよう資料を提示する。	パワーポイント資料
<b>学</b> インターネットの仕組みを知ることを通して、自分自身や社会に及ぼす影響について考えよう。		
2. インターネットの仕組みについて理解する。	・スライドや実物を見せることでインターネットの仕組みについて理解できるようにする。	LAN ケーブル等
3. インターネットに関する話し合い活動を行う。	・クラスのアンケート結果を元に、自分自身や学級の状況について考えさせる。	
4. ネット依存等について話し合う。	・各自行うことで、自分自身の現状を振り返り、インターネットに対する理解を深め、実践への意欲を高められるようにする。	アドバンテージクラス(集計機能)等
5. DVD「情報の記録性、公開性の重大さ」を視聴する。	・何気ない行動が、肖像権や著作権の侵害などに繋がることを理解させる。	DVD教材
6. 情報公開の重大さや今後の人生に与える影響について考え、意思決定し発表する。	・インターネット上の投稿は、消去できず、今後の人生に大きく影響を及ぼすことについて考えさせる。 ◎今後、インターネットを使用する際、どのようなことに気をつけ行動すべきか意思決定することができたか。	
7. 本時のまとめをする。		
<b>ま</b> 生徒の発言や、ワークシートの記述から、インターネットはとても便利なものであるが、軽はずみな行動をとると、自分自身や周囲などに大きな影響を及ぼすことを確認して、日々の生活につなぐ。		



# 社会科学習指導案

柏市立柏中学校 3年5組

授業者：鶴巢 寿氏

## 1. 単元名：消費生活と経済「私たちの消費生活」

## 2. 単元について

経済の分野の最初に当たる本単元は、自分の暮らしを豊かにしていくために、限られた時間と収入の中で必要な商品を選択することや、家計やクレジットカードの利用についても触れ、主に自分の生活を成り立たせるために必要な知識を習得することをねらいとする単元である。この単元で学習する『商品の選択』に関連付けて「フェアトレード」の紹介をし、消費者教育につなげていきたい。

## 3. 本時について

### (1) 目標

フェアトレードが始まった背景を理解し、一消費者として、フェアトレード商品とどのように向き合っていくかを考えるきっかけをつくる。(購入が「正しい」という指導はしない)

### (2) 消費者教育の視点

日常的に行う「買い物」という行為が、少し意識するだけで世界の貧困・環境問題の改善にもつながることを理解することで、消費者としての意識を高める。

### (3) 展開

指導内容・学習活動	指導上の留意点(◎評価)	備考
1. 身近な商品にもフェアトレードマークが付いていることを知る。	・生徒の興味を引いたり、理解しやすくしたりするため、ICT機器を使って、フェアトレードのマークなどの写真や画像を表示する。	ICT画像
2. 本時の学習問題を知る。		
<b>学</b> フェアトレードとは、どのようなものなのだろうか。		
3. ダイヤモンドを例に、先進国で販売される贅沢品の生産に携わるアフリカ大陸の人々が貧困状態にあることを知る。	・世界には、贅沢品の生産に携わっていても、貧困状態にある人々がいるという問題点に気づかせる。	ICT画像
4. リベリアを例に、なぜ貧困状態にあるのか、小グループで考え、発表する。	・貧困状態になってしまうのはなぜか。小グループを作って考えさせる。机間指導で必要に応じて助言をする。	ワークシート
5. フェアトレードの目的と、商品を買うことでどうなるのかを知る。	◎「フェアトレード」や「フェアトレード商品を買うこと」に対する自分の考えをまとめることができたか。(ワークシート・発表)	
6. 本時のまとめをする。	<b>ま</b> 少し意識してフェアトレード商品を買うことによって、世界の貧困に苦しむ人々の生活を変える手助けにつながる。	



# (専門教科) 情報科学習指導案

千葉県立柏の葉高等学校 情報理数科 1年8組

授業者：佐藤 一樹 氏 (T1)・尾形 光生 氏 (T2)

## 1. 単元名：「レコメンドアルゴリズム」

## 2. 単元について

情報技術の進展により、EC サイト (Electronic Commerce site) を利用する場面が急速に増加している。利用者の購買意欲をかき立てる方法としてレコメンドエンジンが活用され、消費者にとっては興味・関心のある商品を膨大な量の中から探す手間が省け、販売者にとっては増収益につながる等、お互いの利益の追求に寄与している。本単元では、レコメンドエンジンがどのように機能しているのかを複数のレコメンドアルゴリズムを元に考え、場合に応じたアルゴリズムの使い分けの重要性を理解する。

## 3. 本時について

### (1) 目標

レコメンドアルゴリズムを理解させ、場合に応じたレコメンド機能の活用について考察させる。

### (2) 消費者教育の視点

レコメンド機能の信憑性について理解し、購入者の気持ち・販売者の思惑を満たすようなレコメンドアルゴリズムを設計する重要性を学ぶ。

### (3) 展開

指導内容・学習活動	指導上の留意点 (◎評価)	備考
1. 本時の学習課題を知る。		
<b>学</b> レコメンドアルゴリズムの仕組みを知り、活用について考えよう。		
2. グループごとに、レコメンド機能について考察し、代表者が発表する。	・実店舗の買い物の経験を交えながら考察しやすいようにアドバイスをを行う。	
3. ECサイトにおけるレコメンドエンジンの活用について、実際のサイトを確認する。	・机間指導を行いながら、生徒の検索結果を口頭や中間モニターを使い共有する。	
4. 協調フィルタリングのアルゴリズムを実際に体験する。	・中間モニターを活用し、TTと協力して生徒個々の進度に差が出ないように指導する。	
5. レコメンドアルゴリズムのそれぞれの特徴について考察する。	・適切な考察が行えている生徒に関しては、積極的に発表の機会を与え、全体で共有させる。	
6. 本時のまとめをする。	◎複数のアルゴリズムの活用について積極的に理解しようとしたか。(ノート、発表)	
<b>ま</b> それぞれの場合に応じたアルゴリズムを考察・選択し、利用者にとって適切な情報の提供を行うことが重要である。		